

## JNSA2004 年度ワーキンググループ成果報告会

JNSA 研究員 安田 直義

2005 年 6 月 13 日、大手町サンケイプラザに於いて、JNSA2004 年度ワーキンググループ成果報告会と定時総会が開催されました。ここでは、成果報告会の内容についてご紹介します。尚、当日のプレゼン資料などは下記の URL で公開されていますので、合わせてご覧ください。

[http://www.jnsa.org/seminar/2005/seminar\\_20050613.html](http://www.jnsa.org/seminar/2005/seminar_20050613.html)

成果発表会はプログラムのように、2 部屋に分かれて並行して報告されました。両方聞きたかった、というご意見は昨年もあったのですが、限られた時間と場所で JNSA の多くの活動報告を行いたいということで、趣旨をご理解いただけるようお願いいたします。また、トラック間の休憩時間も微妙にずれていることもご指摘を頂きましたが、これも画一的に時間を割り振るのではなく、成果発表会で各 WG から報告する内容によって調整した結果であることをご理解頂ければ幸いです。

さて、報告内容についてご紹介して行きましょう。2 トラックの 1 トラック目は、教育部会と政策部会、2 トラック目は技術部会が担当しました。順を追って報告内容を簡単にご紹介します。

311 号室
教育部会 10:00 ~ 10:50
10:00 ~ 10:30 スキルマップ作成 WG みずほ情報総研 佐久間敦氏
10:30 ~ 10:40 CISSP-WG NTT コミュニケーションズ 大河内智秀氏
10:40 ~ 10:50 情報セキュリティ教育 WG ヒューコム 松田剛氏
10:50 ~ 11:00 休憩
11:00 ~ 11:30 教育部会特別講演 東京大学大学院 工学系研究科 工学教育推進機構 教授 吉田眞氏
11:30 ~ 12:30 昼休み
政策部会 12:30 ~ 15:30
12:30 ~ 13:00 セキュリティ被害調査 WG ディアイティ 山田英史氏
13:00 ~ 13:30 個人情報保護法ガイドライン WG 大塚商会 佐藤憲一氏
13:30 ~ 13:40 休憩
13:40 ~ 14:10 マーケットリサーチ WG グローバルセキュリティ エキスパートジャパン 勝見勉氏
14:10 ~ 14:30 セキュリティ会計ガイドライン 検討 WG 凸版印刷 佐野智巳氏
14:30 ~ 14:50 セキュア・システム開発 ガイドライン WG ラック 丸山司郎氏

312 号室
技術部会 10:00 ~ 15:30
ごあいさつ 技術部会長 佐藤友治氏
10:20 ~ 10:40 セキュリティポリシー WG NEC ソフト 小杉聖一氏
10:40 ~ 11:10 脆弱性定量化に向けての検討 WG 京セラコミュニケーションシステム 郷間佳市郎氏
11:10 ~ 11:20 休憩
11:20 ~ 11:40 ハニーポット WG JNSA 研究員 園田道夫氏
11:40 ~ 11:50 不正プログラム WG アークン 渡部章氏
11:50 ~ 12:50 昼休み
12:50 ~ 13:20 PKI 相互運用技術 WG セコム IS 研究所 松本泰氏
13:20 ~ 13:40 S/MIME 検討 WG NTT コムウェア 磐城洋介氏
13:40 ~ 13:50 休憩
13:50 ~ 14:20 暗号モジュール評価基準 WG シーフォーテクノロジー 小川博久氏
14:20 ~ 14:40 Webセキュリティ調査・検証 WG 住商エレクトロニクス 二木真明氏
西日本支部 14:40 ~ 15:00
14:40 ~ 15:00 中小企業向け個人情報保護対策 WG 伊藤忠テクノサイエンス 市川順之氏

## トラック 1

### 教育部会

#### スキルマップ作成 WG

みずほ情報総研の佐久間敦氏から、スキルマップについて報告されました。スキルマップは、2002年からIPAの課題として取り組んできたテーマで、現場で即戦力となる技術者を採用したり、人材流動の際に技術スキルを的確に把握して、需要と供給のミスマッチをなくすための評価方法について検討してきました。今回の報告はその集大成として行われました。

#### CISSP-WG

NTTコミュニケーションズの大河内智秀氏から、CISSP-WGについて紹介がありました。このWGは、2004年度の途中から準備会が設けられ、2005年度に新設されたWGで、CISSPの日本語化と日本の事情を反映したISSJPの作成を目指しています。このWGには、東大の安田浩教授や総務省のご参加も頂いています。

#### 情報セキュリティ教育 WG

ヒューコムの松田剛氏から、情報セキュリティ教育に関するカリキュラムの実証評価と、いろいろな教育カリキュラム等の整理を行い、JNSAとしての推奨教育リストを作成する活動について説明がありました。この活動は、経済産業省からの課題として活動する実証評価プロジェクトと、JNSAとしての推奨教育を提案するWGとに分かれて活動を行うことになりました。

#### 教育部会特別講演

東京大学大学院・工学系研究科・工学教育推進機構 教授の吉田眞氏から、「これからの工学・技術者教育」について講演して頂きました。国際性、リーダーシップ、幅広い視点、等々を身につけられる教育に

ついて、環境や主義の対立、問題意識の指摘、工学・技術者教育を取り巻く問題等について考察が行われました。工学系修士課程のアンケート調査でも、基礎力不足と視野拡大の基盤不足が現れていましたが、底上げをしてもあまり効果はなく、トップを引き上げることで全体がレベルアップするそうです。高い平均点ではなく、ここぞの100点を評価するような仕組みに変える必要があるとの方向性が示されました。最後にAlan Kayの『人間に知識を与える唯一の方法は、学びたくなるようなきっかけを与えることだ』という言葉を引き合いに出し特別講演を締めくくられました。

吉田先生には教育部会で更にディスカッションをしていただくことを企画しています。JNSAのWebページを注意してみてください。

### 政策部会

#### セキュリティ被害調査 WG

ディアイティの山田英史氏から、2004年度・情報セキュリティインシデントに関する調査報告について説明されました。この調査報告は、アンケートとヒアリングによって2001年度から実施されています。当初からの情報セキュリティ事件・事故の実態調査および被害額算定式の提案と、2002年度から考察している個人情報漏洩における被害想定と考察からなっています。公開されている個人情報漏洩に関する事例の情報資産価値（想定損害賠償額）は、2004年度で4,666億9,250万円に上ると試算されていました。

#### 個人情報保護法ガイドライン WG

大塚商会の佐藤憲一氏から、3月に出版された「個人情報保護法対策セキュリティ実践マニュアル 2005年度版」を中心に解説されました。この本は、企業の視点で実務に則した対策を行えることを目指して、5W1Hによる解決を考えられるように構成されてい

ます。対症療法的な具体例が盛り込まれ、すぐ役に立つ対応を用意できます。

#### マーケットリサーチ WG

グローバルセキュリティエキスパートジャパンの勝見勉氏から、ITセキュリティ対策施策の導入・実施状況とその満足度調査に関する報告が行われました。いろいろな観点から考察を加えていますが、技術的に難しいシステムや機材を採用したにも拘らず、外部サービスを利用せず、結果として問題を起している可能性があることが浮かび上がってきているとの指摘がありました。

#### セキュリティ会計ガイドライン検討 WG

凸版印刷の佐野智己氏から、企業における情報セキュリティ確保への取り組みを適切に評価し、把握し、そして伝達する仕組みとして、「環境会計」に倣って、「セキュリティ会計」の考え方の提唱がありました。本WGでは、目的×対策×対象による三次元モデル『情報セキュリティ会計キューブ』を提案し、コストと効果を定量化することを目指しています。まだ新しい分野なので、広く意見を聞きたいとのことでした。

#### セキュア・システム開発ガイドライン WG

ラックの丸山司郎氏から、個人情報保護法施行を契機に、一般の情報システムへの管理責任が要求されるようになり、開発システムのセキュリティ評価基準としてISO15408が存在するが、どのレベルを選択すべきかの判断基準がほとんどない、との問題提起がされました。この状態を改善するために、システム開発に於けるセキュリティガイドラインを広く公開したいというWGの趣旨と活動の方向性について説明がされました。

## トラック 2

### 技術部会

#### セキュリティポリシー WG

NECソフトの小杉聖一氏から、セキュリティポリシー策定をISMS認証基準などを参考にし、リスク分析や規程書（ドキュメント）作成のポイントや実際の実装方法について情報公開をしたいというWGの活動について説明がされました。ポリシーWGは2000年から活動していますが、2004年度からは、(1) サンプルポリシーとISMS認証基準の対応確認、(2) ポリシー（管理策）に対応した技術対策の調査の両面から検討しています。

#### 脆弱性定量化に向けての検討 WG

京セラコミュニケーションシステムの郷間佳市郎氏から、脆弱性の定量化アプローチについて説明がされました。意思決定者が脆弱性対策情報に対応する／しないの決定、あるいは、対応の緊急性を判断するための指標となる数値を算定するモデル式を作ろうという試みです。 $R = T \times A \times V$  (R: リスク T: 脅威 A: 資産 V: 脆弱性) という式が有名ですが、定量化が難しいので、理論的には正しいけれど、現場で使うことが困難という認識が背景にあります。

#### ハニーポット WG

JNSA 研究員の園田道夫氏から、ハニーポットの実証実験について活動報告がありました。ハニーポットも最近では第3世代のシステムが出てきているので、2005年度の活動の前半として第3世代のシステムの稼働実験を行いたいという企画が説明されました。また、ログの解析手法の研究も引き続き行い、ハニーポットの利用対象や効果について実証していくとの予定が示されました。

### 不正プログラム調査 WG

アークンの渡部章氏から、2004年度の成果として、「絵で見るネットワークの脆弱性と脅威」についての説明がありました。SANSが公開している“The Twenty Most Critical Internet Security Vulnerabilities The Experts Consensus”をベースにして、最も危険なセキュリティの脅威 Top 20を判り易く説明した結果について解説されました。

### PKI 相互運用技術 WG

セコム IS 研究所の松本泰氏から、ChallengePKI プロジェクトと並行して情報発信している本 WG の活動が説明されました。年 3 回参加している IETF でのマルチドメイン PKI を始めとする今までの活動についての概要と、2004 年度に取り上げた PKI における UTF8String 問題 (RFC 3280 の標準の問題) についての詳細が解説されました。現時点でも、アプリケーションの実行環境によって、証明書が等しく扱われていないことが報告され、RFC 標準に追加すべき提案について説明がされました。これは 2004 年 11 月に引き続き、2005 年 8 月の IETF でも議論されました。

### S/MIME 検討 WG

NTT コミュニケーションの磐城洋介氏から、2004 年度の成果として「S/MIME メールクライアントの機能検証結果報告」が説明されました。メールソフトに PKI に基づいた S/MIME 機能がどれだけ正確に実装されているかについて、12 種のメーラでの検証を行った結果が紹介されました。メールヘッダの扱いに関する技術的な問題点、証明書の失効検証をしていないものが多かった現実、認証局に対する課題などが提起されました。

### 暗号モジュール評価基準 WG

シーフォークテクノロジーの小川博久氏から、暗号モジュールを評価するための要件である FIPS140-2

と、そのスキームとしての CMVP に関する解説がされました。2004 年 12 月 14 日 (火) に情報セキュリティ大学院大学で開催された「暗号モジュール評価基準カンファレンス」の成果を中心に暗号モジュールの実装に関する問題点の指摘が行われました。

### Web セキュリティ調査・検証 WG

住商エレクトロニクス (現 住商情報システム) の二木真明氏が急用の為、メンバーと一緒に活動している JNSA 研究員の安田から報告されました。Web アプリケーションが包含する脆弱性についての対策や回避策の検討を行うことを WG の目標としていることが紹介されました。現在 3 グループに分かれて活動しています。(1) Web アプリケーションセキュリティに関する啓発コンテンツの作成 (2) Web アプリケーション開発の受発注におけるセキュリティガイドラインの検討 (3) 攻撃手法の技術的研究

## 西日本支部

### 中小企業向け個人情報保護対策 WG

伊藤忠テクノサイエンスの市川順之氏から、西日本支部としての活動が報告されました。2005 年 4 月、個人情報保護法完全施行に対して中小企業がどのような状況に陥るのか?、できる対策は何かあるのか?、といった観点から、モニタ企業を募って JNSA としてコンサルティングを実施し、進捗・結果を研究チームへフィードバックして、必要な対策を共有することを目指しています。

以上、2004 年度の JNSA 部会の成果報告会の内容を簡単にご紹介しました。2005 年度の活動は若干変更がある部分もありますので、ご質問、参加希望、新規 WG の立上げ等のご相談等があれば、遠慮なく JNSA 事務局までご連絡ください。